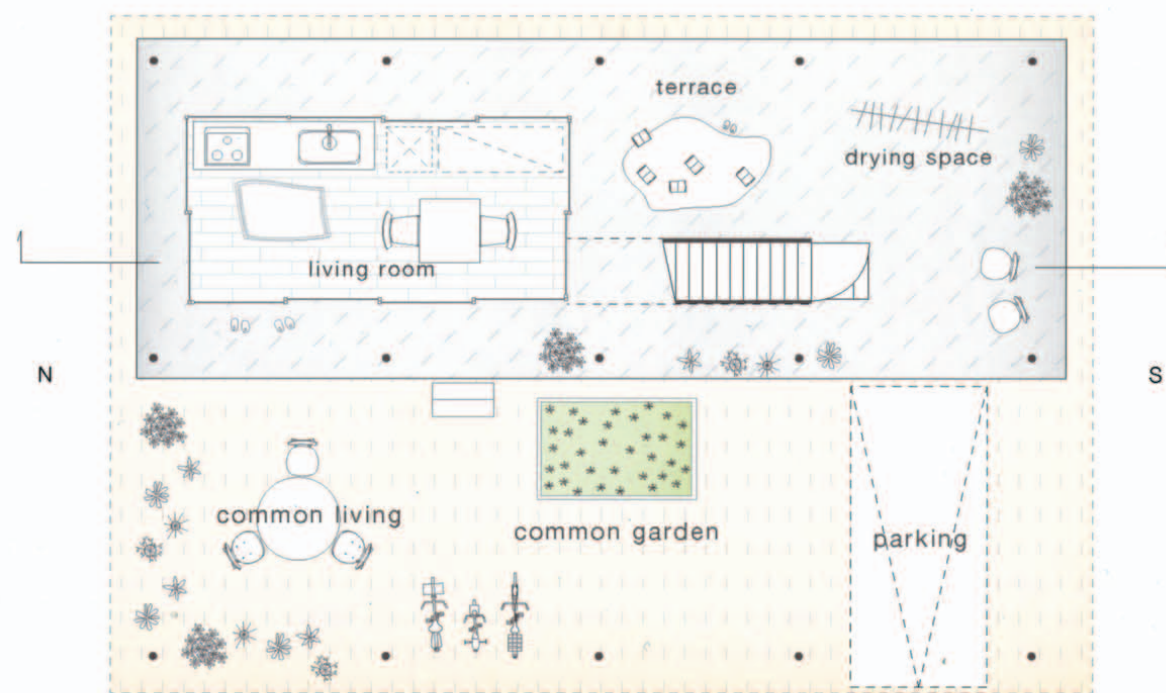
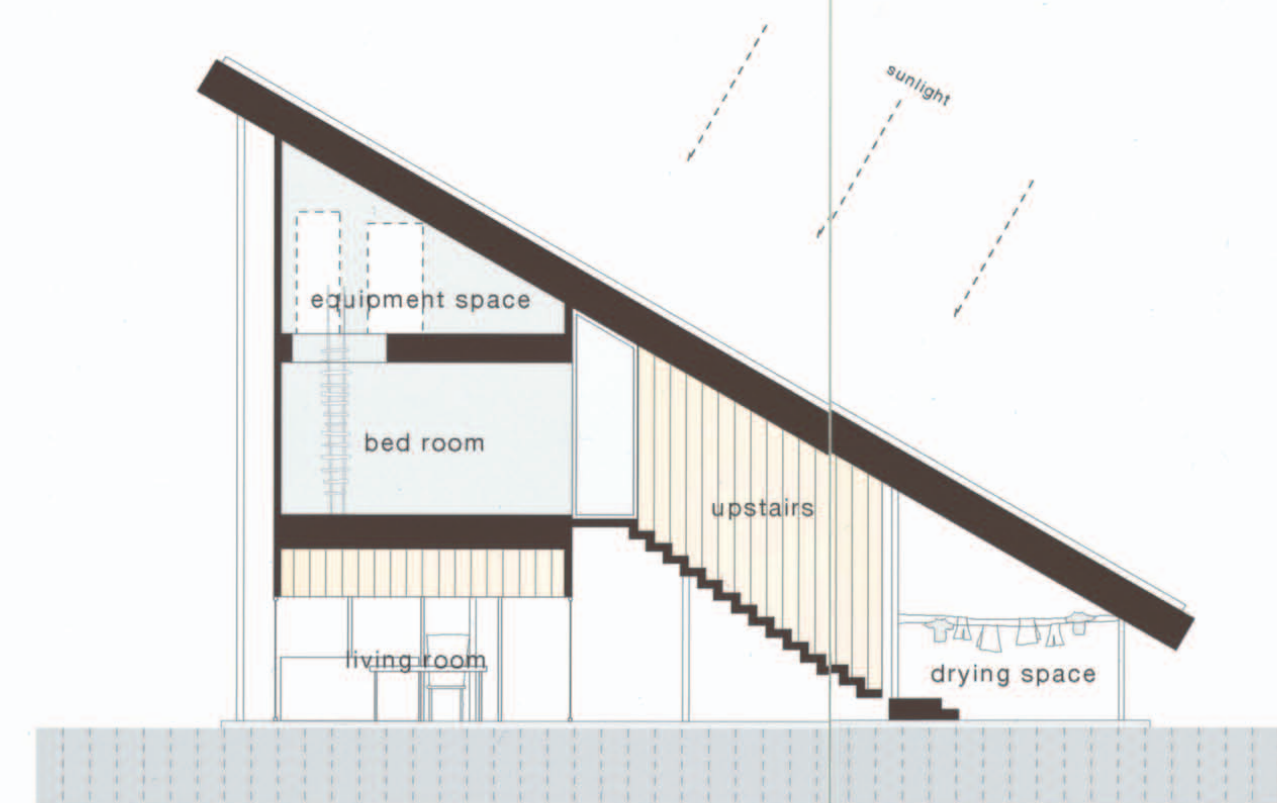


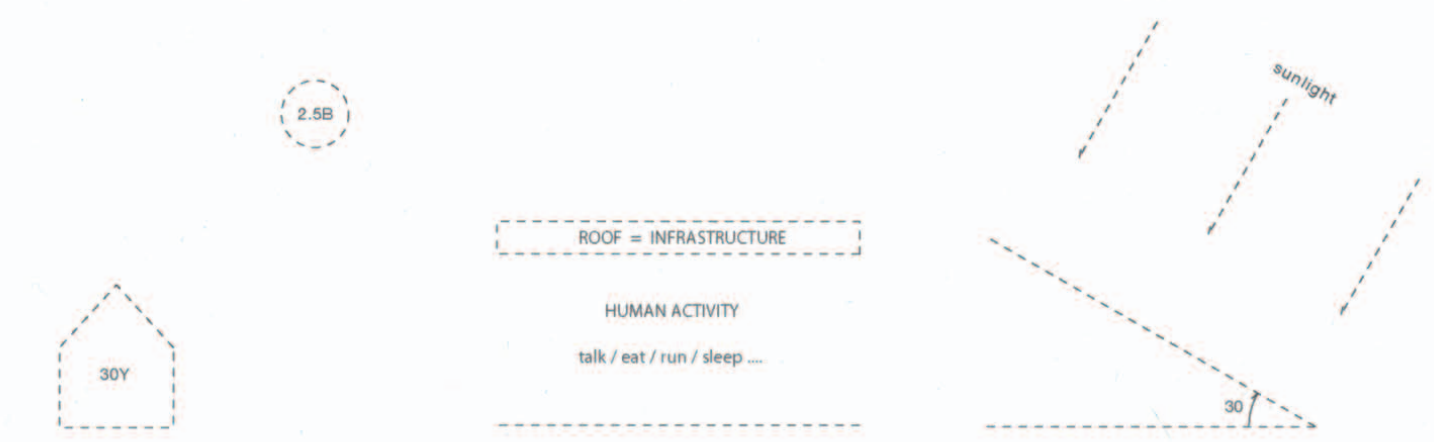
# TIMELESSROOF



PLAN  
[S\_1:100]



SECTION  
[S\_1:100]



スケールのはなし

一説によると太陽の寿命は26億年らしい。それに対し、日本における住宅の寿命は30年がやっとである。既存の住宅に載せられた太陽光パネルも、30年たてば取り壊されるのだから、本来的な役割を最大限発揮しているとは言えない。ここでは住宅とは切り離された大屋根をかけ、その大きな単位の下で生活が展開する図式を考える。ここでの生活は、住戸=家族というありふれた構成とは異なり、得られるエネルギーの量による大きな単位で「家族」が再構成される。大屋根は、自然の持つ長いスケールを受け入れながら生活という短いスケールを包括するインフラとなり、人々の「共有財産」として役割を果たしていく。